

IIAS International Institute for Advanced Studies

May 2001 No.21

IIAS NEWSLETTER

2001年5月発行

国際高等研究所

関西文化学術研究都市



国際高等研究所は、「人類の未来と幸福のために何を研究すべきか」を研究することを基本理念として、新たな学問の創造・進展を目指す「課題探索型」の基礎研究を行っています。

すなわち、人類の未来と幸福にとって不可欠な課題を発掘し、その問題解決に向かっての研究戦略を展開する中で、学術研究における新しい研究の萌芽、或いは新たな学問の立ち上げにより広く世界文化の発展に寄与することを目的としています。

目次

所長就任挨拶：金森 順次郎

2001年度事業計画

掲示板：副所長人事、常務理事人事

所長就任挨拶

国際高等研究所 所長

金森 順次郎

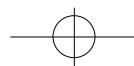


私たちの当面の目標は、国際高等研究所を活力に満ちた知の触れ合いによって新しい知を生む場として広く認められる存在とすることです。

このたび図らずも所長の大役をお引き受けすることになりました。私は第1期の企画委員として、創設に尽力された奥田東、岡本道雄、河野卓男の3人の方々が国際高等研究所に注がれた情熱に直接触れる機会が何度かありました。また1997年秋以降、フェロー及び課題研究を代表する特別委員として、現在の研究体制を発展させられた沢田敏男前所長と前副所長の方々の御苦心を目の当たりにしてまいりました。この経験を生かして、研究所の21世紀初頭の発展に微力の限りを尽くす所存です。幸い、岡田益吉、北川善太郎、中川久定という3人のすばらしい方々に副所長に御就任いただきましたことは大変心強いことあります。

この国際高等研究所は、設立趣意書にも述べられているように、基礎研究に力点をおいた創造のための組織であります。また、学問の全分野を視野に入れ、産・官・学の各分野の研究組織とも制度の壁や分野の区別を意識せずに接することができるユニークさを特色としています。19世紀から20世紀にかけての学問は、各専門分野が独自の道を歩んで発展して来たといえます。もちろん学際

的といわれる努力で他分野の成果を積極的に取り入れることの重要性は久しく認識されていましたが、これからは、それぞれの目的意識自体の融合が要求されるような諸課題に取り組み、新しい学問を創造することがますます重要となります。国際高等研究所はその組織のユニークさを強みとして、さまざまな事業を通じて各分野の知の結集と交流を図り、人類の未来と幸福に貢献する知的資産の形成に努めています。ここで知とは、データ化した知識ではなくそれを形成して行く活力を、さらに他の人の活力を触発する能力を含んでいることはお断りするまでもないことあります。この活力、能力の強弱は必ずしも年齢に依存するものではなく、まして職業上の区別とも無関係であります。私たちの当面の目標は、国際高等研究所を活力に満ちた知の触れ合いによって新しい知を生む場として広く認められる存在とすることです。各方面からの御提言をお待ちすると同時に、研究事業の推進に御関心をいただきましようをお願い申し上げます。



2001年度事業計画

2001年3月22日(木)午後2時から高等研において、「第44回理事会」、「第38回評議員会」が開催され、(1)2001年度事業計画、(2)2001年度収支予算、(3)資産運用、(4)理事・評議員の一部交代及び選任、(5)役員人事及び役員報酬、(6)顧問の選任の6議案が説明され、承認された。「2001年度事業計画」の概要は下記のとおりである。

総 括

え、課題研究(A)に移行する2件の研究事業の計6件を推進する。

2001年度の事業計画では、以下の7点を重点課題とする。

1. 研究事業の積極的な推進

自主財源(基本財産運用益・運用財産)をはじめ、文部科学省「科学研究費補助金特定奨励費」、日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」、科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」等の公的資金を活用し、課題研究(A)、課題研究(B)、特別研究、共同研究、受託研究等の研究事業の積極的な推進を図る。

2. 「学者村」の活性化

- 研究者の招へい、若手研究者の育成 -

3. 情報生物学適塾

- 集中トレーニング・コース -

4. 国際交流事業への取り組み

5. 研究成果の取りまとめ及び公表

6. 研究環境の整備及び情報発信機能の充実

7. 研究資金の充実

研究事業の推進

1. 課題研究(A)

課題研究(A)は、中・長期を展望した研究テーマについて、概ね3年程度の研究期間を設けて計画的に推進する課題探索型の基礎研究である。2001年度における課題研究(A)は、2000年度の課題研究(A)からの継続研究である4件の研究事業と、2000年度の課題研究(B)の成果を踏ま

(1)「臨床哲学の可能性

- 生命環境の諸問題を軸として -

(1999年度開始、2001年度終了予定)



研究代表者：野家 啓一

国際高等研究所特別委員

東北大学大学院文学研究所教授

専門：哲学・科学哲学

「臨床哲学(c clinical philosophy)」とは、現実社会の具体的な場面で生じているさまざまな問題を「治療」という観点から、「患者」の立場に立って考えていくこうとする哲学的活動を指す。従来の哲学が、抽象的な「一般的原理」の探究を目指してきたのに対し、臨床哲学は具体的な「個別事例」から出発することによって既成の原理を揺さぶり、新たな概念や思考のスタイルを紡ぎ出すことを試みる。

(2)「物質研究における多角的協力の構築」

(1999年度開始、2001年度終了予定)



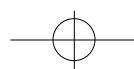
研究代表者：金森 順次郎

国際高等研究所所長

大阪大学名誉教授

専門：物性物理学

物質科学とその関連諸分野では多くのプロジェクトが進行しているが、新しい発展を目指すときに他グループとの協力の手がかりが少ない場合がある。この欠点を補うために既存のプロジェクトを横断する企画をたて、異分野をつなぐ新しい協力関係を作り、次の新しい発展の出発点を構築することを目的とする。



(3)「高度情報化社会の未来学」

(2000年度開始、2001年度終了予定)



研究代表者：坂井 利之
国際高等研究所特別委員
京都大学名誉教授
専門：情報工学

高度情報化社会では、サイバー空間の基盤となる情報技術と不可避的な人間・キカイ共存系（インフォスフェア）での新しい人間の組織、制度、秩序の構築が最重要課題となるであろう。本課題研究では、「情報技術」「ボーダレス社会」「人間倫理・教育」「規範ルール」の分科研究会を組織して、それぞれの分野に関する研究を行うとともに、包括・効率的に研究を推進し、世に問うべきメッセージを広く社会に発信することを目標とする。

(4)「種属維持と個体維持のあつれきと提携」

(2000年度開始、2002年度終了予定)



研究代表者：岡田 益吉
国際高等研究所副所長
筑波大学名誉教授
専門：発生生物学

種属維持と個体維持という、生物にとってはどちらも欠くことのできない営みの全体像を、生殖細胞と体細胞の関わりに重点を置き、進化をも視野に入れてダイナミックに浮き彫りにすることを目的とする。本年度においては、生殖細胞形成の様式について、できるだけ多様な生物群についてどこまで明らかにされているかを探すことから出発する。

(5)「『一つの世界』の成立とその条件

- 鎮国時代の日本とヨーロッパ -

(2001年度新規、2003年度終了予定)



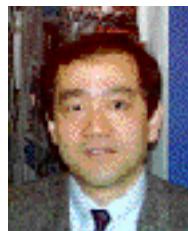
研究代表者：中川 久定
国際高等研究所副所長
京都大学名誉教授
専門：フランス文学

日本、ヨーロッパそれぞれの幻想的イメージの交錯の実態、こうした幻想を生み

出すにいたった両者の認知的枠組みのあり方、双方の異なる枠組みが衝突した際に起こる葛藤の実状、この葛藤を通して現れてくる世界は一つであるという両者共通の認識、などを究明するとともに、その当時日本とほぼ同じ状況下にあった中国、朝鮮対ヨーロッパの関係についても、同じ視点から考察を加え、問題をより明確にすることを試みる。

(6)「多様性の起源と維持のメカニズム

- 多様性の新しい理解を目指して -



(2001年度新規、2003年度終了予定)
研究代表者：吉田 善章
国際高等研究所特別委員
東京大学大学院新領域創成科学
研究科教授
専門：プラズマ物理学、数理科学

様々な複雑系に現れる多様性や複雑性は既存の物理概念と理論では扱うことができない新たな科学のテーマであり、新たなパラダイムの探求として、多様性や複雑性を法則として捉える科学的新領域を開拓する。複雑系の進化を、「多様性」が生み出され維持されるダイナミックなプロセスとして捉え、そのメカニズムを説明する新たなパラダイムの確立をめざす。

2. 課題研究 (B)

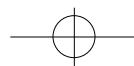
課題研究 (B) は、中・長期を展望した課題について、研究項目、研究方法、研究組織等の検討を通して課題研究 (A) への移行を図る研究及び特定の研究テーマについて行う短期的な研究または学術フォーラムの開催を計画する。

課題研究 (A) への移行準備のための研究及び短期的研究の事業計画として採択した課題は、下記の5件である。

(1)「量子情報論の展開」



研究代表者：飛田 武幸
国際高等研究所学術参与・
特別委員
名古屋大学名誉教授
専門：関数解析学



数理科学の分野において、統一的かつ総合的な方法論が、過去の蓄積を有効に活かしつつ理論・応用の両面で画期的に進歩すると期待される舞台の一つに「量子の世界の数理」がある。本研究はその典型ともいべき「量子情報論の数学的側面からの構築」の研究を、我が国で創始されたホワイトノイズ解析の手法を応用して理論的に推進する。

(2)「法観念の比較文化論」



研究代表者：上山 安敏
国際高等研究所企画委員
京都大学名誉教授
専門：西洋法制史・法哲学

現代法実務の現状分析に主眼をおいた「法意識」論を包摂する形で、比較文化の観点から「法観念」の文化的種差が現代法の分野にどのように現われているかを究明する。

(3)「思考の脳内メカニズムに関する総合的検討」



研究代表者：波多野 誠余夫
国際高等研究所特別委員
放送大学教授
専門：認知科学・心理学

最近の脳画像技術の発展を背景とする脳研究の大きな前進が期待される状況を踏まえ、広く思考を研究する認知科学、発達心理学、神経心理学、脳生理学、言語学、人工知能などの第一線の研究者による学際的な協力を得て、高次情報処理としての思考機能が脳内においていかに実現されるかというそのメカニズムの解明を目指す。

(4)「公共部門における人材の配分と育成 -官僚制の日・独・米比較-」



研究代表者：猪木 武徳
国際高等研究所企画委員
大阪大学大学院経済学研究科教授
専門：経済思想・労働経済学

我が国における公共部門の人事

システムに関する労働経済学の視点からの研究を踏まえ、公共部門における人材の配分と育成に関する課題について、比較制度分析を用いてドイツ及び米国の研究者との共同研究という形態で取り組む。

(5)「災害観の文明論的考察」



研究代表者：小堀 鐸二
国際高等研究所学術参与・
特別委員
京都大学名誉教授
専門：建築構造学

現在の都市型社会は、その裏側に災害に対する脆弱性という大きなリスクを伴っているが、人々は将来の災害リスクに対してあまりにも寛容である。効率性の追求と災害に強い社会に実現に向けた新たなパラダイムの構築は可能なのか。こうした根源的問題について文明論の立場から議論し、災害に強い安心・安全な社会システムの構築に向けて新たに取り組むべき研究課題の抽出を目的とする。

次の3課題については、学術フォーラムを開催し、事業の収斂、研究内容の深化を図る。

(1)「日本統治下における台湾の法文化」

研究代表者：チェン, ポール企画委員

(2)「巨視的乱雑系の力学」

研究代表者：異友正学術参与

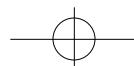
(3)「日本文学における恋愛」

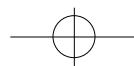
研究代表者：青木生子企画委員

3. 特別研究

「特別研究」とは、事業主体との間で委託研究契約または共同研究契約を締結して推進する事業の内、特に大型の予算を組み、数年に亘る研究期間を予定する特殊性などを考慮して、特別の推進体制や研究の枠組みを設けて推進する研究事業である。

2001年度は、1998年度から開始した下記2件の研究課題について継続事業として推進する。





(1)「情報市場における近未来の法モデル」

研究代表者：北川 善太郎
国際高等研究所副所長
名城大学教授
専門：民法学

日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」として認められた研究事業であり、研究期間は、1998年度～2002年度（5年間）。

情報社会における情報と知的財産の創造と流通に関する著作権取引市場である「コピーマート」について、法モデルを策定する。

(2)「器官形成に関わるゲノム情報の解読」

研究代表者：松原 謙一
国際高等研究所学術参与・特別委員
大阪大学名誉教授
専門：分子生物学

科学技術振興事業団「戦略的基礎研究推進事業」として認められた研究事業であり、研究期間は、1998年12月～2003年11月（5年間）。

高等動物の器官形成は、全面的にゲノムに組み込まれた遺伝情報の逐次的発現に基づいて進行するものと考えられる。器官形成における遺伝子発現のプロファイルを経時的に追い、複雑な調節系にある遺伝子発現の継起事象を遺伝子単位で記載し、器官形成における発現制御のネットワークを明らかにすることを目的とする。

4. 共同研究

(1) 京都大学数理解析研究所との共同研究

研究代表者：鈴木 増雄
東京大学名誉教授
専門：数学

2001年度及びそれ以降においては、2000年度において課題研究（B）の副課題として推進した「非線形現象の数理と量子解析」の内容を共同研究の対象課題とするべく、京都大学数理解析研究所との協議を踏まえて、事業化を図る。

(2) 奈良女子大学との共同研究

研究代表者：広瀬 和雄
奈良女子大学大学院人間文化研究科教授
専門：考古学

2000年度において、奈良女子大学との間で「歴史的概念としての「日本」の形成と変容 - 意識としての古代の時間・空間およびその場におけるイデオロギーと儀礼との相関関係を軸として - 」をテーマとする新規の共同研究を開始した。研究期間は、2000年度～2002年度（3年間）。

5. 受託研究

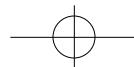
特定の研究課題について他の研究機関等から研究委託の申し出があり、本研究所の理念や運営方針その他に照らし合わせて受託することがふさわしいと判断される場合には、当該研究課題について受託研究として事業化を図る。

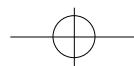
6. 学術フォーラム・その他の研究集会

必要に応じて、単発の学術フォーラムや研究集会を企画開催する。

**情報生物学適塾 -
集中トレーニング・コース**

我が国ではミレニアムプロジェクトの実施以来、バイオインフォマティクスのできる人材が強く求められているが、需要に応じられていないのが現状であり、生物科学と情報科学の両方を併得し、新しい分野「情報生物学」を開拓する人材の育成を早急に行わなければならない。このような状況に鑑み、2000年度の新規事業として「適塾」の精神にのっとった情報生物学集中トレーニングコースを開設し、人材の育成を早急に行うこととした。2001年度においてもさらに充実したカリキュラムを準備して実施することを計画する。





卓越した研究者の招へい

(招へい学者「IIAS Fellow」及び招へい研究者
「IIAS Researcher」制度)

優れた研究環境を醸成するため、本研究所の研究施設を活かし、研究活動の活性化を図るため、国内外の卓越した研究者を「招へい学者（IIAS Fellow）」として招へいする本制度を活用し、2001年度は10名程度の内外の学者の招へい事業を予定する。

2001年度における招へい学者（確定者）

（順不同・敬称略）

- (1) 岩田 一明・大阪大学・神戸大学名誉教授
(機械加工学・生産システム学・人間工学)
- (2) 江尻 宏泰・大阪大学名誉教授(原子核物理学)
- (3) 垂井清一郎・大阪大学名誉教授(内科学)
- (4) 仲田 周次・大阪大学名誉教授
(知的システム工学)
- (5) Alexander J.Varshavsky・カリフォルニア工科大学
教授(理論化学)

若手研究者への研究助成

（「特別研究員」及び「研究員」制度）

優秀な若手研究者の研究を奨励するために研究奨励金を支給する「特別研究員」制度、及び特別研究等の研究事業に若手研究者を参加させ、研究の進展を促進するための「研究員」制度等を通して若手研究者の育成を図る。2001年度は、特別研究員として大学院博士課程修了予定者及び在学中の2名を新規採用する。

2001年度における特別研究員

（順不同・敬称略）

- (1) 山名 美加・博士(法学・大阪大学)
(2000年度より継続)
- (2) 浅井 暢宏・博士(理学・名城大学)
(2000年度より継続)
- (3) 林 健太・大阪大学大学院国際公共政策研究科
後期博士課程(2001年度より新規)
- (4) 赤坂 立也・京都大学大学院理学研究科後期博士
課程(2001年度より新規)

情報出版事業ならびに 研究成果の公表

1. インターネット出版

本研究所の知的資源である研究成果を内外に広く発信して学術の国際的な発展に資するため、インターネット等の情報メディアを活用した情報出版事業の充実に努め、高度情報化を背景とする情報出版活動の電子化を図る試みとしてインターネット出版を推進する。これらは、新たな著作権市場「コピーマート」を応用したビジネスモデルであり、特別研究「情報市場における近未来の法モデル」の成果を活用するものである。

2. 研究成果の公表

2000年度以前に終了した課題研究（A）及び課題研究（B）について、その研究成果を2001年度内に取りまとめるとともに、学術出版や研究成果を一般に公開する講演会の開催等、研究成果の公表に努める。

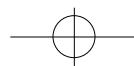
一般公開事業

1. 一般公開講演会

本研究所の活動内容に対する理解を得るために、また、さらに学術研究に関わる最前線の話題を広く一般社会に提供することを目的とし、IIAS Fellow 公開講演会などの一般公開講演会を企画・開催する。

2. 「けいはんな・茶会と文化学術講演会」

2001年度から、定例公開事業として、「茶会と文化学術講演会」を企画・開催する。「茶会」では、茶道の心得のない人にも気楽にお茶を楽しんでもらえるように配慮するとともに、茶道をとおして日本文化の理解を深めてもらう企画とする。「文化学術講演会」では、学者だけではなく文化人も講師に招き、科学あるいは広く文化に関する講演を行う。



3.『親子』サイエンス・スクール

サイエンス・スクールは、21世紀を担う子供達を対象に、著名な研究者との触れ合いを通して創造性と科学への夢を導き出すことを目的とするもので、2001年度においても秋の定例行事と位置付け、事業化を図る。

広報活動

1. 広報誌「こうとうけん」及び「IIAS NEWS LETTER」の発行
2. インターネットホームページの充実
<<http://www.iias.or.jp/>>

課題研究(A) 研究メンバー

(* 印は研究代表者、順不同・敬称略、所属・肩書は4月1日現在のもの)

(1) 臨床哲学の可能性

生命環境の諸問題を軸として

* 野家 啓一	東北大学大学院文学研究科教授
池田 清彦	山梨大学教育人間科学部教授
小川眞里子	三重大学人文学部教授
金森 修	東京大学大学院教育学研究科助教授
川本 隆史	東北大学大学院文学研究科教授
小林 傳司	南山大学人文学部教授
小松 美彦	東京水産大学水産学部助教授
斎藤ひろみ	東北大学医療技術短期大学部助教授
清水 哲郎	東北大学大学院文学研究科教授
高安真里子	ダンスセラピスト・マリコダンスシアター
立岩 真也	信州大学医療技術短期大学部助教授
田村 公江	龍谷大学社会学部助教授
チョン・ヨンヘ	大妻女子大学人間関係学部助教授
中岡 成文	大阪大学大学院文学研究科教授
半田 結	九州看護福祉大学看護福祉学部助教授
鷺田 清一	大阪大学大学院文学研究科教授

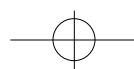
(2) 物質研究における多角的協力の構築

* 金森順次郎	国際高等研究所所長
<運営>	
興地 斐男	和歌山工業高等専門学校校長
斎藤 軍治	京都大学大学院理学研究科教授
寺倉 清之	産業技術総合研究所
仲田 周次	大阪大学名誉教授
福山 秀敏	東京大学物性研究所教授
丸山 有成	法政大学工学部教授
志水 隆一	大阪工業大学情報科学部教授
<企画1>	
仲田 周次	大阪大学名誉教授
志水 隆一	大阪工業大学情報科学部教授
大平 文和	香川大学工学部教授
池田 順治	松下電器産業(株)
高尾 正敏	松下電器産業(株)先端技術研究所
町田 一道	三菱電機(株)生産技術センター
<企画2>	
寺倉 清之	産業技術総合研究所
斎藤 軍治	京都大学大学院理学研究科教授
丸山 有成	法政大学工学部教授

赤井 久純	大阪大学大学院理学研究科教授
<企画3>	
福山 秀敏	東京大学物性研究所教授
寺倉 清之	産業技術総合研究所
十倉 好紀	東京大学大学院工学系研究科教授、JRCAT
斎藤 軍治	京都大学大学院理学研究科教授
三宅 和正	大阪大学大学院基礎工学研究科教授
<企画4>	
金森順次郎	国際高等研究所所長
四方 義啓	名城大学理工学部教授

(3) 高度情報化社会の未来学

* 坂井 利之	国際高等研究所特別委員
林 敏彦	大阪大学大学院国際公共政策研究科教授
東倉 洋一	NTT先端技術総合研究所
浅野 幸治	大阪府企画調整部
有本 建男	内閣府大臣官房審議官
石田 亨	京都大学大学院情報学研究科教授
今井 良彦	松下電器産業(株)先端技術研究所
今川 拓郎	大阪大学大学院国際公共政策研究科助教授
川北 真史	中央大学経済学部兼任講師
木戸出正継	奈良先端科学技術大学院大学
小浦 久子	情報科学研究科教授
小暮 潔	NTTコミュニケーション科学基礎研究所
社会情報研究部	
坂田 裕輔	鹿児島大学法文学部助教授
諏訪 基	産業技術総合研究所
武邑 光裕	東京大学大学院
新領域創成科学研究科助教授	
田中 英俊	関西広域連携協議会
丹野 清武	松下電器産業(株)
システムソリューション事業部	
利根川忠明	(株)日立製作所半導体グループ
虎沢 研示	三洋電機(株)ハイパーメディア研究所
西田 豊明	東京大学大学院情報理工学系研究科教授
橋爪 紳也	大阪市立大学文学部助教授
畠中 明敏	新世代通信網実験協議会(BBCC)
林 春男	京都大学防災研究所
福地 一	巨大災害研究センター教授
	通信総合研究所



福留 五郎 オムロン(株)技術本部IT研究所
 藤田 邦彦 NTTコミュニケーションズ
 ソリューション事業部
 前川 英樹 (株)東京放送メディア・国際室
 真名垣昌夫 日本電気(株)情報通信メディア研究本部
 森田 修三 (株)富士通研究所
 矢島 敬士 (株)日立製作所システム開発研究所
 山下 淳 神戸大学法学部教授
 吉田 佳一 (株)島津製作所基盤技術研究所
 淀川 英司 工学院大学大学院工学研究科教授
 鶯田 清一 大阪大学大学院文学研究科教授

井田 清子 駒沢大学非常勤講師
 井田 進也 大妻女子大学比較文化学部教授
 彌永 信美 大谷大学非常勤講師
 ロバート・キャンベル 東京大学大学院総合文化研究科助教授
 桑瀬章二郎 同志社女子大学現代社会学部講師
 小関 武史 一橋大学大学院法学研究科講師
 中野 三敏 九州大学名誉教授
 堀池 信夫 筑波大学大学院哲学・思想研究科教授
 松田 清 京都大学総合人間学部教授
 エンゲルベルト・ヨリッセン 京都大学総合人間学部助教授

(4) 種属維持と個体維持のあつれきと提携

*岡田 益吉 國際高等研究所副所長
 阿形 清和 岡山大学理学部生物学科教授
 石川 冬木 東京工業大学大学院生命理工学研究科教授
 岡田 清孝 京都大学大学院理学研究科教授
 岡田 節人 JT生命誌研究館館長
 横川 真樹 理化学研究所
 発生・再生科学総合研究センター
 川村 和夫 高知大学理学部教授
 小林 悟 岡崎国立共同研究機構
 統合バイオサイエンスセンター教授
 中川 久定 國際高等研究所副所長
 長濱 嘉孝 岡崎国立共同研究機構
 基礎生物学研究所教授
 星 元紀 慶應義塾大学大学院理工学研究科教授
 松居 靖久 大阪府立母子保健総合医療センター
 三井恵津子 (財)武田計測先端知財団事業部
 矢原 徹一 九州大学大学院理学研究科教授

(6) 多様性の起源と維持のメカニズム

多様性の新しい理解を目指して
 *吉田 善章 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
 伊藤 伸泰 東京大学大学院工学系研究科助教授
 北原 和夫 國際基督教大学教養学部教授
 鳥海 光弘 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
 合原 一幸 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
 <ワークショップメンバー>
 郷原 一寿 北海道大学大学院工学研究科助教授
 山家 智之 東北大学加齢医学研究所助教授
 西森 拓 大阪府立大学大学院工学研究科助教授
 青木 圭子 科学技術振興事業団研究員
 田中 久陽 ソニ-コンピュ-タサイエンス研究所
 似田貞香門 東京大学大学院人文社会系研究科
 神谷 和也 東京大学大学院経済学研究科教授
 村重 淳 東京大学大学院
 新領域創成科学研究科助教授
 石村 直之 一橋大学経済学部助教授

(5) 「一つの世界」の成立とその条件

鎖国時代の日本とヨーロッパ
 *中川 久定 國際高等研究所副所長
 石川 文康 東北学院大学教養学部教授

課題研究(B)の研究メンバーについては、
 確定次第ホームページにて公表します。

掲示板

副所長人事

任期満了に伴う副所長人事において、岡田益吉・筑波大学名誉教授、北川善太郎・名城大学法学部教授(再任)、中川久定・京都大学名誉教授が4月1日付で就任。4月7日に記者発表した=写真=。



左より岡田、金森、北川、中川の新正副所長

常務理事人事

3月22日の理事会において、新井輝隆・國際高等研究所理事/事務局長=写真=が常務理事に選任され、4月1日付で就任した。



お問い合わせ 国際高等研究所
 International Institute for Advanced Studies

編集・発行 / 國際高等研究所
 〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9-3
 TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005
<http://www.iias.or.jp/> e-mail: www_admin@iias.or.jp